

平成 29 年 10 月 12 日

お客様各位

日本農薬株式会社

農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

1.新規登録 平成 29 年 10 月 11 日付 (2 件)

(1) ツルギフロアブル

登録第 23980 号

有効成分: イフェンカルバゾン…5.0% イマズスルフロン…1.8% ベンゾピシクロン…4.0%

毒性: 毒物劇物に該当せず 危険物区分: ー

【適用病害虫の範囲及び使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ ミスガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ セリ、オモダカ、クログワイ	移植直後～ルビエ 2.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで	500ml /10a	1 回	原液湛水散布又は 無人ヘリコプターによる滴下
		移植時			田植同時散布機で施用

イフェンカルバゾンを含む 農薬の総使用回数	イマズスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【使用上の注意事項】

- ・使用前に容器を軽く振ること。
- ・本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ルビエの 2.5 葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミスガヤツリ、ウリカワは 2 葉期まで、ヘラオモダカは 3 葉期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期までが本剤の散布適期である。
- ・苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- ・本剤を移植時に散布する場合には、所定量を均一に散布できる田植同時散布機を使用すること。
- ・本剤を無人ヘリコプターで滴下する場合は次の注意を守ること。
 - ① 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。 ② 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
 - ③ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
 - ④ 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人ヘリコプターによる本剤の滴下は行わないこと。
 - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
 - ⑥ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
 - ⑦ 本剤の滴下に使用した無人ヘリコプターの散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- ・散布に当っては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布し、少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態(水深 3～5 cm)を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また、散布後 7 日間は落水、かけ流しをしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- ・強風時の散布はさけること。
- ・下記のような条件では、初期生育抑制を生じるおそれがあるので、使用をさけること。特に、これらの条件が重なる場合は、初期生育が著しく抑制されるので注意すること。
 - ① 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - ② 活着遅延を生じるような異常低温の時 ③ 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深 2cm/日以上)
 - ④ 軟弱な苗を移植した水田 ⑤ 極端な浅植の水田 ⑥ 植え穴のもどりが悪い水田
- ・梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- ・本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- ・いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- ・散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- ・散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- ・本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(2) ツルギ1キロ粒剤

登録第 23979 号

有効成分：イプフェカルバゾン…2.5% イマゾスルフロン…0.90% ベンゾピシクロン…2.0%

毒性：毒物劇物に該当せず 危険物区分：－

【適用雑草及び使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ、ヘオモダカ ミスガヤツリ、ウリウリ、ヒルムシロ セリ、オモダカ、クログワイ	移植直後～ピエ 2.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで	1kg/10a	1 回	湛水散布又は 無人ヘリコプターによる散布
		移植時			田植同時散布機 で施用

イプフェカルバゾンを含む 農薬の総使用回数	イマゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【使用上の注意事項】

- ・本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ピエの 2.5 葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘオモダカ、ウリウリは 2 葉期まで、ミスガヤツリは 4 葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、セリは再生前から再生始期までが本剤の散布適期である。
- ・苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- ・本剤を移植時に散布する場合には、所定量を均一に散布できる田植同時散布機を使用すること。
- ・散布に当っては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態(水深 3～5 cm)を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また、散布後 7 日間は落水、かけ流しをしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- ・下記のような条件では、初期生育抑制を生じるおそれがあるので、使用をさけること。特に、これらの条件が重なる場合は、初期生育が著しく抑制されるので注意すること。
 - ① 散布後低温が続くと予想される時
 - ② 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - ③ 活着遅延を生じるような異常低温の時
 - ④ 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深 2cm/日以上)
 - ⑤ 軟弱な苗を移植した水田
 - ⑥ 極端な浅植の水田
 - ⑦ 植え穴のもどりが悪い水田
 - ⑧ 稲の根が露出した水田
- ・梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- ・散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- ・本剤を無人ヘリコプターで散布する場合は次の注意を守ること。
 - ① 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ② 専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - ④ 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から 5m 以上離して圃場内に散布すること。
 - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- ・本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- ・空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- ・散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。

2.適用拡大 平成 29 年 10 月 11 日付 (2 件)

(1)サンダーボルト007

登録第21072号

〈1〉適用内容の変更

①使用時期の追加:たまねぎ(秋播移植栽培)/定植後畦間処理:雑草生育期 但し、収穫 30 日前まで

②使用時期の変更:たまねぎ(秋播移植栽培)/耕起 7 日前まで(雑草生育期:草丈 30 cm以下)

⇒耕起又は定植 7 日前まで(雑草生育期)

③使用目的の追加:水田作物(水田畦畔)/草丈抑制による刈込軽減、50～150ml/10a

【変更後】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	ピラフルフェニルを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量				
たまねぎ (秋播移植栽培)	—	一年生雑草	耕起又は 定植 7 日前まで (雑草生育期)	400～ 600ml /10a	100ℓ /10a	3 回 以内	雑草 茎葉 散布	3 回以内	3 回以内
		スズメカビラ 及び 一年生広葉雑草	定植後畦間処理 :雑草生育期 但し、収穫 30 日前まで						

【追加】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用目的	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	ピラフルフェニルを含む農薬の総使用回数
					薬量	希釈水量				
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生及び 多年生雑草	草丈抑制 による 刈込軽減	雑草生育期又は 刈取後再生期 但し、 収穫 14 日前まで	50～ 150ml /10a	100ℓ /10a	2 回 以内	雑草 茎葉 散布	3 回以内	2 回以内

〈2〉注意事項の変更

【追加】(注意事項に下記項目を追加)

・水田畦畔で薬量を 50～150ml/10a で使用する場合、草丈 20cm 以下を目安に処理すること。

(2)フェニックスフロアブル

登録第 22853 号

適用病害虫名の追加:キウイフルーツ/ケムシ類(4000 倍)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルベンジアドを含む農薬の総使用回数
キウイフルーツ	スカシバ類 ハマキムシ類 キイロマイカ ケムシ類	4000 倍	200～700ℓ /10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内

* 注意事項の変更はありません。

以上